

# ADATARARA

あだたら



## 特集1

「今も続く  
協力隊活動への思い」

平成21年度  
4次隊 佐藤広美さん  
(青年海外協力隊) コスタリカ  
[浪江町出身]

## 特集2 現地レポート

「世界で活躍する  
JICAボランティア」

2016年度  
2次隊 阿部翔太さん  
(青年海外協力隊) ニカラグア  
[いわき市出身]

## VOICE JICA 応援団

二本松市 根本果樹園 根本雄一郎さん

## イベントレポート

JICA二本松開催「夕涼みの集い」



# EVENT

イベント

＼ 地元の方々に /  
感謝して! /  
**夕涼みの集い**



岳温泉観光協会鈴木安一会長(左)と握手を交わすJICA二本松訓練所洲崎毅浩所長(右)



200名以上の参加者が交流を深めた。

7月29日(土)にJICA二本松訓練所で「夕涼みの集い」を開催しました。  
2017年度2次隊候補者の他にも普段からJICA事業を理解し、JICA二本松訓練所を支援して下さる岳温泉観光協会、にほんまつ地球市民の会、二本松青年会議所、二本松商工会議所、二本松観光協会等、大変多くの方々に参加しました。  
夕涼みの集いでは、普段あまり交流する機会のない、二本松市の方々との親睦を深めました。JICA二本松訓練所は今後も「地域に開かれたJICA二本松訓練所」として岳温泉の除雪作業や地域のイベントにも積極的に参加します。  
そしてこれから活動が活発になる岳温泉観光協会とさらなる連携強化に向けた話し合いを進めていきます。



JICA二本松訓練所所長による「必勝講座」  
(2017年4月)

## 「2017年度JICAボランティア秋募集開催!」

2017年9月29日(金)から11月1日(水)までの34日間、2017年度JICAボランティア秋募集がいよいよ始まります!  
福島県では福島市、郡山市、いわき市、会津若松市の4会場で募集説明会を実施いたします。また今年もJICA二本松で1日体験入隊～合格編～を開催いたします。  
1日体験入隊にご参加される皆さまには、JICAボランティア経験者との懇談も予定しております。  
各地で開催される募集説明会では、募集要項の配布以外にも個別相談やJICAの支援制度、体験談発表を実施します!

## イベント情報

- 9月13日(水) …… 2017年度2次隊 青年海外協力隊修了式
- 9月17日(日) …… 結・ゆいフェスタ2017
- 9月18日(月) …… こおりやまユニバーサルフェスティバル2017
- 9月23日(土)～24日(日) …… ふくしまグローバルセミナー2017
- 9月27日(水) …… 福島市募集説明会
- 9月30日(土) …… おいしく学ぶ、世界の暮らし～マレーシア編～
- 10月8日(日) …… 会津若松市募集説明会
- 10月14日(土) …… いわき市募集説明会
- 10月18日(水) …… 郡山市募集説明会
- 10月29日(日) …… 1日体験入隊

# 特集1

## 今も続く 協力隊活動への思い



平成21年度4次隊  
派遣国: コスタリカ 職種: 作業療法士  
佐藤広美さん(浪江町出身)



年に1~2回、みんなでプールへ出かけます!

### 身近にあった国際協力の「トビラ」

私が国際協力を目指したのは、高校生の時に病院で見た1枚のポスターでした。

そのポスターはJICAボランティアの募集説明会の案内で、それを見た時に「これだ!」と感じました。高校生の私にはそれだけインパクトがありました!

漠然と「JICAボランティアになりたい。」と考えるのではなく、JICAボランティアや国際協力の道に進むためには「いま何をすればいいのか」、「これからどうすればいいのか」という考え方をしました。

そして私は医療分野にも興味があったのでJICAボランティアの職種にもある「作業療法士」として応募しようと考えました。



同僚と施設の子どもたちとの1枚

### いよいよ「トビラ」を開く時!

作業療法士として働いて10年、JICAボランティアになる夢は色あせることがありませんでした。

むしろ作業療法士として本当に多くの経験を積むことができたこと、これからなるであろうJICAボランティアとして多くの人たちと関われることに喜びのような感覚を持っていました。

ただJICAボランティアは観光で有名な国とは違い、どうしても危険な国への派遣というイメージがあったため、親や周りの人たちに応募することは内緒にしていました。

晴れて試験に合格して派遣国が「コスタリカ」と決まった時は、どこにある国か探すところから始まりました!



佐藤さんは農村部などの貧困地区でも活動をしていた



地元の学校で日本の文化紹介!

## できることを一つずつ

私はコスタリカの首都サンホセから車で3時間の場所にある施設に配属されました。

私の活動していた施設は、車イスで生活している子どもや発達障害の子どもが通う教育施設です。

私は作業療法士として、施設に通う子どもと一緒に掃除や料理、学校の勉強など生活に直結したリハビリを行っていました。コスタリカで作業療法士として活動する中で、この国にはまだまだ作業療法士と子どもの受け入れ施設が不足しているように感じました。施設の存在を知らない家庭や遠くてなかなか通えない家庭も目の当たりにしました。

そこで私は同僚と家庭訪問をしたり、施設に通ってもらえるよう話し合いを重ねることもありました。私が作業療法士としてコスタリカで活動を始めている間に、コスタリカ国内でも作業療法士の養成校を増やそうとする動きがありました。また特別支援学校との文化交流会や独立記念日にダンスを踊ったり様々なイベントも実施できました。

## 今も続く協力隊活動への思い



子供向け講座の様子

活動も2年目に入り、コスタリカの生活にも慣れてきた矢先、東日本大震災が発生しました。

コスタリカでも大きなニュースとして取り上げられ、私はホストファミリーに震災のことを告げられました。パソコンで震災の状況を調べても不安な気持ちが募るばかりで、どうすることもできないもどかしさがありました。

家族は福島市に避難していることがわかり、日本に帰国できたのは震災から4ヶ月後のことでした。

帰国してからは避難生活となってしまう、生活の基盤ができるまでは家族と行動を共にしていました。その際も派遣国コスタリカでのたくさんの優しさや受けた恩恵が自分にとっての励みでした。

避難生活からさらに数ヶ月後、仮設住宅に移り住んだのを機に、福島市で作業療法士として仕事に復帰できました。仕事の内容はJICAボランティア当時と同様に、発達分野でのリハビリテーションです。国は違えども、子どもたちの笑顔はコスタリカの子どもたちと同じように感じました。親御さんの支援を含めて一人一人が自己実現を果たし豊かな生活が送れるよう自分なりにお手伝いできればと思います。

私にとってJICAボランティアとは、今でも進化し続ける経験であり、当時を振り返る上で思い出へと変わることのない鮮明な記憶として胸に刻まれています。普段の生活では感じる事の出来ない本当に貴重な期間でした。



同僚のみなさんとお揃いのユニフォームを準備しました

# 特集2

## 世界で活躍する JICA ボランティア

～野球が人生を変える～



いつも巡回している学校で野球の授業と一緒にいった女の子たちです。すごく良い表情をしていますよね!

写真が大好きな子供達。試合中だぞー!!

U-12コーチたちの写真。お互いに指導方法等を共有しながら活動しています。



2016年度2次隊  
派遣国:ニカラグア  
職種:野球  
阿部翔太さん  
(いわき市出身)



「外国に行ってみたい!」と一度でも思ったことがありますか?  
私はその思いと野球が重なって今ニカラグアで野球を指導しています。

ニカラグアは中米の中で一番大きな国で、みんな音楽とダンスが大好きです。

「みんな野球やってるやん!」それがニカラグアに来て最初に持った感想です。そこで、現状を把握するために近くの学校の巡回、スポーツ庁内で実施されているアカデミーに参加し「ニカラグア野球」を知ることによって時間を費やしています。また、ニカラグアは野球の世界ランキング15位と国際大会での更なる活躍が期待されています。

「野球選手になりたい」ニカラグアの子供達も日本の子供達と同じように言います。そんな子供達を指導していて気づいたことがあります。それは夢を持った時から、心が変わり、行動が変わるということです。私もそのような野球少年の一人でした。夢に向かっていく過程で、たくさん涙を流し、感動し、そこからたくさんことを学びました。

そんな経験が社会に出た時エネルギーに変わります。そんなことを野球を通して学んで欲しい、その信念がニカラグアでの原動力になっています。

私もまだ野球を通して生きる力を学んでいる野球少年と同じ気持ちです。

また、野球は男子だけのスポーツではありません。女子もできます!!女子野球の新しい風をニカラグアで起こせたらと思います。

福島の皆さんにもニカラグアを知ってほしい!



ニカラグアで「運動会」を実施しました。現地の人にとってラジオ体操は難しいようです!



在外研修で訪れたコスタリカの小学校で授業。投げることが楽しくてもういっちょ!



# VOICE

ボイス

## ～JICA二本松応援団～

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援して下さっている方にJICAボランティアとのエピソードや期待・エールをインタビューします。

今回は、二本松市永田地区で「根本果樹園」を営んでいる根本雄一郎さんです。派遣前訓練の「所外活動」で、候補者のボランティア活動を受け入れています。根本さんは果樹栽培を代々営んでおり、その歴史は100年以上続いています。現在5代目となる根本さんはこの土地でこれからもいろいろな作物を作り続けていきたいそうです。



8月に収穫を迎える「20世紀梨」  
毎年2次隊が所外活動で収穫の手伝いをする



地上から150センチの高さで梨が実っているため、  
女性でも管理しやすいように工夫されている



2017年度2次隊「所外活動」の様子



根本果樹園 根本雄一郎さん

### 候補者はいつから受け入れていますか？

震災前から受け入れており、JICA二本松訓練所のスタッフさんの紹介でもう8年くらいになります。毎年10人以上の候補者がお手伝いに来てくれます。

### JICA二本松の候補者はこちらでどのようなことをしていますか？

この農園では梨、キュウリ、お米、その他にも野菜を作っています。

4月から6月にJICA二本松訓練所に入所する1次隊には梨の手入れをお願いしています。7月から9月まで訓練をしている2次隊にはキュウリの選定をお願いしています。ただ3次隊、4次隊の時期になると農園の後片付けの時期になるのでなんだか申し訳ない気持ちですね。1次隊をお願いしている梨の手入れというのは、摘果のことを言います。梨の木は花がたくさん咲きます。花が散って小さな実が出来ます。その中から実りの良い物を選定する作業です。だいたい1つの木に6つくらい実がつかます。難しい作業ではないですし、候補者はしっかり作業を手伝ってくれています。1回目の所外活動ではみなさん集中している様子で無言で作業しているので、もっとお話ししながら、楽しみながら作業できるように促しています。2次隊は毎年暑い時期に受け入れているので、熱中症など体調が悪くならないように声を掛けながら作業してもらっています。1次隊はまだ何も実りが無い時期でこれから育つ作物の摘果、手入れをしてもらっています。そして1次隊がお世話した作物を2次隊が収穫したり、一部食べることができます。そういった意味で、2次隊は季節的にも大変な作業が多いですが、楽しめることも多いのかもしれない。

この果樹園では幸水、豊水、20世紀梨の3種類の梨を育てています。

去年、一昨年の候補者は梨が実る時期にお手伝いに来てくれたので、皆さんに食べてもらうことができました。その場で5～6個食べていたのがとても印象的でした。私も片付ける作業が減りますし、候補者の皆さんも喜んでいたのでお互いに良かったのかなと感じています。

### 最後にJICAボランティアの皆さんにエールをお願いします！

そこに暮らす人たちが幸せになれるように、そして派遣されていく候補者やすでに派遣されている隊員の皆さんにとっても充実した2年間になること、なにより無事に帰ってきてもらいたいと思います。

これまでここに来た候補者の皆さんは学校の先生や看護師さんなどいろいろな仕事に携わっている方が多く、農業を経験した方はほとんどいなかったように思います。それでも楽しく学ぼうとする姿や大変な作業をコツコツとこなす姿を見るとやはり選ばれてきた人なんだと感じます。遠く日本から、皆さんの活躍を期待しています。

根本さんインタビューに答えていただきありがとうございました！  
候補者にとってもかけがえのない学びの時間となっています！

## 質問コーナー

第6回目

# あなたに とって 〇〇とは?

このコーナーでは、派遣中の隊員や帰国後のOV、JICA二本松のスタッフなど、JICAボランティアとして活躍している隊員や帰国後にJICAで得た経験を通して社会で活躍している方たちにさまざまな質問をしてみました!! 第6回目となる今回のテーマは、「派遣国の人たちに受け入れられるためにしたことは?」です。



## 「おしゃれは世界共通!?!」です。

活動先の先生方はサリーを毎日着ます。サリーは動きにくいのですが、毎日着るようにしました。先生方と「似合うわよ!」と褒め合ったり、アクセサリーを一緒に買い物に行ったすることで、ぐっと先生方との距離が縮まり活動もしやすくなりました。

## 「村のパトロール(散歩)」です。

最初は私を見て泣き叫んで逃げていた子供たちとも、些細なきっかけ1つですぐに仲良くなることができるようなのは万国共通。365日、ほぼ何も起こらない村。でも、そんな些細なきっかけを1つでも多く作るために私は毎日、村のパトロール(散歩)をしていました。



## 「郷に入ったら郷に従え!」です。

子どもや先生方の心を掴んで注目してもらうには、「現地の言葉を話すこと!」そう思って、簡単なあいさつや会話を現地語で覚えました。他にも、民族衣装を着たり、現地の人と同じように、手掴みでごはんを食べたり。その国の文化に敬意を持って、できることは自分もやってみることが受け入れてもらう第一歩だと感じました。





福島にゆかりのある

# JICAボランティア

2017年度2次隊

※①派遣地域 ②職種 ③出身地



シニア海外ボランティア  
ふるかわ ひとし  
**古川 仁**さん

- ①カンボジア
- ②行政サービス
- ③福島市



福島県は東日本大震災発生から現在まで数えきれない温かい御支援を国内外から頂きました。この御支援への恩返しができる絶好の機会を与えていただいたJICAに感謝しています。これまでの経験を生かしカンボジアの労働力・雇用の向上に積極的に取り組めます。



青年海外協力隊  
ひらいて まさたか  
**平出将孝**さん

- ①東ティモール
- ②手工芸
- ③郡山市



訓練所では、語学の習得のほか、全国から集まっているメンバーに福島を伝えます！  
また、東ティモールでは、日本においても手業の魅力が改めて評価されてきているように、竹細工を含めた手業の価値を高める活動に取り組む予定です。



青年海外協力隊  
いちかわ まさみ  
**市川雅美**さん

- ①ウガンダ
- ②環境教育
- ③いわき市



自然を大切にすることで、自分達の暮らしが良くなる事を任地の方々に理解してもらえよう、人々に寄り添った活動をしていきたいです。  
帰国後、育ってきた福島に恩返しができるように、一步一步頑張っていこうと思います。



青年海外協力隊  
いがり なおふみ  
**猪狩尚史**さん

- ①マラウイ
- ②公衆衛生
- ③いわき市



人間の健康は、みんな平等であり生きていくための基本です。マラウイの人たちが、病気を予防し心身ともに健康な生活が送れるよう、そして、自分たちの力で健康を守ることができるように、保健師・看護師の経験をいかして支援していきたいです。



シニア海外ボランティア  
あんどう さとし  
**安藤 智**さん

- ①アルゼンチン
- ②経営管理
- ③郡山市



少年は夢を見ていた。『海は広い～な大き～いな、行ってみたいなよその国』この詩を口ずさみながら。あれから半世紀。今では孫5人の白髪混じりのおじいちゃん。駒ヶ根で訓練開始。青年たちに励まされながらのスペイン語。あの少年の夢をもう一度追いかけてながら。  
いつか、おじいちゃんの気持ちは少年になっていた。

## なんでも相談窓口のお知らせ！

JICA二本松訓練所では、JICAボランティアに関する疑問や相談、募集に関する悩み、そしてJICA事業として行っている草の根技術協力や青年研修など、JICAに関わる全ての相談を受け付けています。  
どんな些細なことでも担当スタッフが丁寧に対応します！！

ぜひ一度ご相談ください！

JICA二本松 なんでも相談窓口



## 福島県出身ボランティア

市町村別 派遣中隊員数



2017年7月31日 現在

合計派遣中:28名 累計:749名

青年海外協力隊			シニア海外ボランティア		
派遣中	26	累計 684	派遣中	1	累計 49
日系社会青年ボランティア			日系社会シニアボランティア		
派遣中	0	累計 10	派遣中	1	累計 6

## 公式SNSラジオ番組のご案内

JICA二本松 公式Facebook



青年海外協力隊の訓練の様子をのぞいてみよう!!

毎日、更新中!

<https://www.facebook.com/jicantc>

ふくしまFM

キミノチカラ、海を越えて  
～青年海外協力隊の道～



世界各国で活躍した隊員をゲストに迎え、参加の動機から任地での活動、帰国後のお話を2週に渡ってたっぷり聞かれます。

毎週土曜 / 8:30~8:55

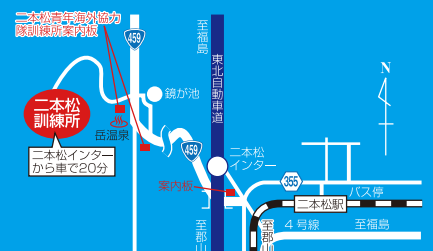
FM Mot.Com

世界も、自分も、変えるラジオ



二本松訓練所の訓練生がつくる番組です。熱い想いが詰まった60分!

第2木曜 / 13:00~14:00  
(再放送:第3木曜/13:00~14:00)



独立行政法人国際協力機構  
発行元  
**二本松青年海外協力隊訓練所**  
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2  
Tel: 0243-24-3200 Fax: 0243-24-3214

●本誌に関するお問い合わせ  
JICA福島デスク 担当:室井(むらい) Tel:024-524-1315 Fax:024-524-8308  
〒960-8103 福島市舟場町2-1 (公財)福島県国際交流協会内